

2017年3月5日 四旬節第1主日

マタイ 4:1-11

創世記 2:15-17, 3:1-7

ローマ 3:21-31

人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。

マタイ 4:4

ねらい

イエスさまが悪魔の誘惑を拒んだのは、父なる神さまへの強い信頼ゆえだった。私たちも、神さま（の言葉と業）に信頼して生きていくことを語りたい。

説教作成のヒント

かつて、エジプトの地を脱出したイスラエルの民は、40年間荒野をさまようこととなった。その間、民は食糧となるパンや水に飢え、苦しみ、主になぜエジプトから導き出したのかと、不満をぶつけた。一方、同じように空腹だったイエスさまは、今日の聖句のように悪魔の誘惑をきっぱりとはねのけた。イエスさまはこのことを通して、神さまの言葉に信頼して生きることを教えられたのである。他の二つの誘惑もまた、イエスさまの神さまへの信頼を揺るがそうとするものであったが、イエスさまはこれらについてもきっぱりと退け、神さまへの信頼を貫いた。ここに、救い主の姿を見ることが出来る。

豆知識

聖書の中で、誘惑とは人間を悪に誘うこと。悪魔は神さまのみ心から人間を引き離すために誘惑を仕掛ける存在として登場する。

説教

イエスさまは、神さまの霊に導かれて、荒野へ行きました。荒野という所は、雨がほとんど降らないので水も少なく、草も木もほとんど生えない場所です。

その荒野で、イエスさまは一人で40日も、何も食わず、水もほとんど飲まない「断食」をして過ごしました。どんなにお腹がすいていたでしょう。

その時、悪魔が、イエスさまの所へ来て言うのです。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」。石をパンに変えてお腹を満たしたらいいではないか、というのです。イエスさまは、今すぐにもパンを口にしかたかったかもしれませんが、きっぱりと言うのです。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」

・・・人は食べ物で満たされても、それだけで生きられない、人が生きるには神さまの言葉が大切だと言われたのです。

神さまの言葉は聖書に書かれていますね。聖書の言葉は、私たちが悲しい思いをしたり、寂しかったりす

る時にも、神さまと一緒にいてくださると、慰め、元気づけてくれます。また、世界のあちこちで起きている戦争で、たくさんの人々が傷つき、辛い思いをしています。聖書に書いてある神さまの言葉は、人々が争うのではなく平和に生きることを教えてくれるものです。どうしたらいいのかと判断に迷った時には、神さまのみ心を教えて、私たちを導いてくれるものです。イエスさまはこの神さまの言葉を、どこまでも信頼して生きようとしているのです。

次に、悪魔はイエスさまを高い神殿の屋根の上に連れて行き、こう誘惑します。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ」、「神が天使を送って支えてくれるはずだ」。

それに対してイエスさまは「あなたの神である主を試してはならない」と答えられました。イエスさまは、神さまは信頼するべき方であって、自分を本当に支えてくださるか？と試すことはよくない、と言われたのです。ここでも、イエスさまは悪魔の誘惑をはねつけ、神さまを信頼するのです。

さらに、悪魔はイエスさまを高い山に連れて行って、世の国々の繁栄ぶりを見せて「わたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言います。イエスさまはその誘惑に乗らずに、「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある」ときっぱりと悪魔の誘惑を断ったのです。

すると、悪魔はとうとうイエスさまのもとから離れ去りました。

このように、今日のイエスさまは悪魔のすべての誘惑に勝ち、どんな時も神さまを信じ従って生きて行こうとされたのです。

わたしたちにも、神さまが喜ばないことへ誘惑され、神さまから離れそうになる時があるかもしれません。

でも、神さまはわたしたちを愛され、救いに導かれる方です。ですから、イエスさまがそうだったように、私たちも神さまから離れず、神さまの言葉と働きを信頼していきたいですね。

## ★分級への展開

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

さんびしよう

□60番

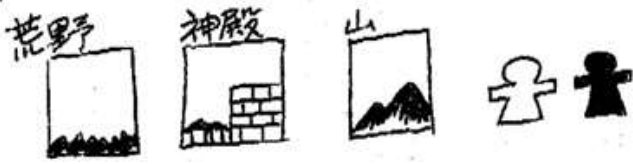
□改訂51番

やってみよう

☆悪魔の誘惑とイエス様の言葉を描いてみよう。

用意するもの：荒野・神殿・山の絵、白と黒の人型（×3）

(例)



(白い人形はイエス様、黒い人形は悪魔に見立てる)

作り方…それぞれの場面の紙に、まず始めに悪魔を置き、誘惑の言葉を言うてみる。

- ・荒野では「神の子ならこれらの石がパンになるように命じたらどうだ」
- ・神殿では「神の子なら飛びおりたらどうだ」
- ・山では「もしひれ伏してわたしをおがむなら、これをみんな与えよう」

それぞれの場面にイエス様を貼り、イエス様の答えた言葉を書いてみる

- ・荒野では？ (4 : 4)
- ・神殿では？ (4 : 7)
- ・山では？ (4 : 10) →聖書から見つけて書いてみよう

- ・ひとつひとつ貼ったら、紙を手に持ち、悪魔を振り落とす。



話してみよう

- ・ 荒野に40日間、断食して過ごされたイエスさまの苦しみを考えてみよう。
- ・ 私たちはどんな時、誘惑に会うことがあると感ずるだろう？その時、どうしたかな？

2017年3月12日 四旬節第2主日

福音書 マタイ 20:17-28

第一の日課 創世記 12:1-8

第二の日課 ローマ 4:1-12

いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。 マタイ 20:27

ねらい

皆の僕となるということは、他人に仕える者となることであり、そこには他人に対する愛がある。イエスさまが十字架でそれを示したように、人を愛する生き方に導かれない。

説教作成のヒント

イエスさまがご自身の十字架と復活を弟子たちに予告するのはこれで3度目である。それにもかかわらず、弟子たちはなかなかその意味を理解できず、ここでも世俗の地位を求める。

そのような中でイエスさまは「皆の僕になりなさい」と語られた。イエスさまご自身は救い主として、十字架で命を捧げることで「皆の僕」となった。これは、愛によって世の人々を祝福に生かす救い主としての生き方である。聖句の「いちばん上」とは、世俗の地位ではなく、イエスさまの生き方に適うという意味で取ると理解できる。

豆知識

- ・杯とは、死に至るほどの苦難を意味する。ここではイエスさまが遭う十字架の苦難のことである。

説教

イエスさまは今、エルサレムの町へ向かって、弟子たちと旅をしています。このエルサレムで、イエスさまは人々の罪を赦すために十字架にかかるのです。

その途中で、イエスさまの弟子のヤコブとヨハネの母親が、イエスさまの所へ来て「王座にお着きになる時、この二人の息子が、一人はあなたの右に、もう一人は左に座れる」と約束してください、と願ったのです。母親は、自分の子供たちのヤコブとヨハネを他の弟子たちよりも偉くしてください、と言っているのです。

偉くなることを求めていたのは、この母親だけではありませんでした。この様子を見ていた他の10人の弟子たちは、ヤコブとヨハネだけイエスさまにお願いして偉くなろうとするなんてずるい、と腹を立てたのですから、この弟子たちも心の中では、自分も他の弟子よりも偉くなりたいと思っていたのです。イエスさまはこの母親に「わたしの右と左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。」と言われ、弟子たちにはこういわれるのです。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい」。

他の人よりも偉くなりたい、という思いの裏側には、偉くない人を見下す思いがあります。知らず知らず

のうちに、他の人を見下してしまうことで、他の人を愛し、助け合って共に生きることが難しくなってしまふものです。

でも、イエスさまはそういう方ではありませんでした。十字架に掛かって、誰よりも低くなって、人に仕える僕となられた方でした。そうして人々の罪や痛み、苦しみを引き受けられました。そうすることで、イエスさまは人々を愛されたのです。

イエスさまは、弟子たちが順位争いをするのでなく、人に仕えて神さまの愛を分け合う人として生きてほしいと望んだのです。それで、すべての人に仕える「皆の僕」となる人こそ、いちばん偉いのだと言われたのです。

#### 分級への展開

さんびしよう \* 讚美歌は” こどもさんびか” (日キ版) より

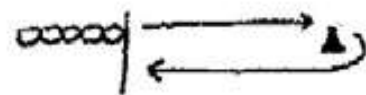
□ 1 2 3 番

□ 改訂 1 2 2 番

#### やってみよう

☆ 一番えらくなる人は仕えるゲームをしてみよう

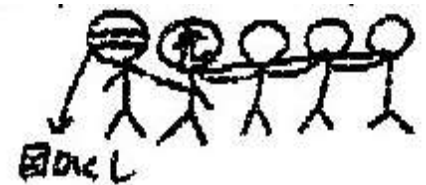
用意するもの：目かくし用の布。折り返し地点に目印になる物



やり方：① 5、6人が1つの列になる

② 1列に並んで、先頭の人がいばって歩き、2番目以降の人は頭を下げて小さくなってついて行く。

③ 折り返し地点になったら、2番目の人に目かくしをして、先頭の方は優しく手を引いてゴールまで連れて行く。3番目の人は先頭の方の肩につかまり、それ以降の人と同様に前の人の肩につかまってゆっくり歩く。



④ ゴールしたら先頭だった人は終わり。一番後ろにつき、次の人が先頭になり、同様にして歩く。列が一巡したら終わり。

#### 話してみよう

- ・ えらくなるとか一番になるというのは、どんなことを思い浮かべるかな？
- ・ 皆の僕（しもべ）になるってどんなことだろう？
- ・ イエスさまが僕のように接して下さったことがあったお話を覚えているかな？

2017年3月19日 四旬節第3主日

福音書 ヨハネ 4:5-26(-42)

第一の日課 出エジプト 17:1-7

第二の日課 ローマ 4:17b-25

わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。

ヨハネ 4:14

ねらい

イエスさまは人間の罪を赦し、愛によって生かされるメシアであることを伝えたい。

説教作成のヒント

イエスさまの言われる「水」と、サマリアの女性が考えている「水」は異なることに注目して伝えたい。前者は神の霊、後者は物質としての水である。水が人間の肉体を生かすように、イエスさまの与える霊的な水は人間を永遠の命に生かすものである。イエスさまは、この水である愛によって彼女を永遠の命に導き入れる。

豆知識

- ・雨の少ないパレスチナでは、水はとても貴重なものだった。そのような背景において、イエスさまはご自分が「生きた水」を与えるという。
- ・当時の習慣では、水汲みは朝と夕方に行われたが、物語中のサマリアの女性は、正午ごろ水を汲みに来た。この女性は人目を避けていたということであろう。16節以下の問答でイエスさまはこの女性に「五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない」とあるので、これがその理由と考えられる。この女性に、イエスさまは自ら声をかけ、関わったのである。

説教

イエスさまはガリラヤに向かっている途中、サマリアのシカルという町に来られました。その町の「ヤコブの井戸」のそばに座っていたイエスさまは、井戸に水を汲みに来た女の人に「水を飲ませてください」と頼みました。それは、他の人があまり水を汲みに来ないお昼頃のことでした。

さて、イエスさまは、この後の女の人と会話の中で、こんなことをおっしゃっています。「この井戸の水を飲む人は、また喉が渇くけれども、わたしが与える水を飲む人は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内に泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」。

どういうことでしょうか。

イエスさまは、この女の人の方が渇いていることをご存じでした。この人は、周りの人々が大事にしていた律法という決まりにそぐわない人生を歩んできた人でした。きっと、周りの人たちから「罪人」だと悪く言われたり、仲間外れにされて辛い思いをしていたのではないかと思います。だから、この女の方は、なるべく人に会わないようにお昼頃に水くみに来たのです。

そんな女の人の、自分を責める後ろめたい心や寂しい心をイエスさまはご存じでした。罪に苦しんでいた女の人を放ってはおかれませんでした。

イエスさまは女の人に「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない」と言われました。イエスさまの与える水、とは、イエスさまから与えられる愛の事です。それは、神さまに罪を犯してしまった人を赦す、神さまの愛です。

イエスさまという方は一人一人を愛してくださる方です。もちろん、間違っただけをやってしまったり、良くないことをしてしまったら、ごめんなさいと謝らなくてははいけませんね。けれども、それでもイエスさまはみんなを見捨てるのではなくて、大切な一人として愛してくださる方です。

この愛は、井戸の水と違って、決して無くなることのないものです。そして、それをいただくならば、その人はいつまでも神さまの尽きない恵みに励まされて、生きることができるのです。

イエスさまは、わたしたちのことも愛し、励まし、生かしてくださいます。どんなときにも、この愛を信じていたいですね。

#### 分級への展開

さんびしよう \* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□88番

□改訂40

#### やってみよう

☆泉の水ではじき絵を描いてみよう。

用意するもの：画用紙、白のクレヨン、

小皿（なければ何かふたでもよい）

やり方：

- ①画用紙に白いクレヨンで自分の顔を描く。
- ②トレイに水色の絵の具の液を多めに作っておく。
- ③1人ずつふでと小皿をもち、水色の絵の具液が入っているトレイを「泉」に見立てて、液を分けてもらってくる。
- ④自分の絵を描いた画用紙に水色の液で全体を塗るとはじかれて自画像がうかび見えてくる。

#### 話してみよう

- ・水が無いとどんな大変な事があるだろう。
- ・イエスさまの言われた「わたしが与える水」渴くことのない「水」は何の事について言っているのかな？

2017年3月26日 四旬節第4主日

ヨハネ 9:13-25

エフェソ 5:8-14

イザヤ 42:14-21

目の見えなかったわたしが、今は見えるということです

ヨハネ 9:25

ねらい

イエスさまは神さまの愛を人々に示す、まことの救い主であることを伝えたい。

説教作成のポイント

この直前までの箇所、イエスさまは、救い主の業として、生まれつき目の見えない人の目を開いたことが記されていた。イエスさまはこのことを通して、御自分が救い主であることを示した。一方、目の開かれた人はイエスさまを通して神さまの救いを受け止め、新しい命に生きる者となった。「今は見える」とこの人の言葉は、目が開かれたことだけでなく、イエスさまがまことの救い主だと分かったという意味であろう。

豆知識

- ・安息日は、モーセの十戒に基づくが、この一つの戒めを守るために39の禁止事項が作られ、さらにそれを守るために234の行為が禁止された。そうして様々な労働が制限されたのである。
- ・ファリサイ派は、これらを厳格に守る人々で、ユダヤの宗教的指導者でもあった。

説教

ある安息日のこと。イエスさまは、生まれつき目の見えない人の目にこねた土を塗り、見えるようにされました。

けれども、安息日というのはユダヤの律法の決まりで、神さまに感謝するための日とされていたので、この日には働いたり、病気を癒したりすることは許されていませんでした。もし、そのようなことをしたら、その人は大切な決まりを守らない「罪人」と言われ、ユダヤ人の中から仲間外れにされたのです。

イエスさまが目を開かれたことを知って、決まりを大切に守る「ファリサイ派」と呼ばれる人々は言いました。「イエスさまは、神さまに感謝する安息日をちゃんと守らない罪人だから、神さまのもとから来た救い主ではない」。でも一方では、こんな風という人もいました。「もし、イエスさまが罪人なら、こんな奇跡を行うことができるはずがない」。みんなはどう思う？

イエスさまがわざわざ安息日にこの人の目を開かれたのは、この人が神さまの恵みを受けて、新しく力をいただいて歩み出すためだったのです。安息日に静かに神さまに感謝するのもいいでしょうが、イエスさまは安息日を人が神さまの恵みを受ける日とされたのです。



今日の最後のところで、目の開かれた人はこう言っています。「ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです」。

この人は、イエスさまが自分のためにしてくださった業を喜んで、そういつているのではないのでしょうか。天の神さまがイエスさまを通して、自分にも心を留め、愛し、大きな業を為してくださることを知って、感謝をしているのです。そうして、この人は安息日に神さまから恵みをいただき、神さまとの深い交わりを持つことができたのです。目の開かれた人は、とても恵み深い安息日を過ごしましたね。

この人が言う「今は見える」というのは、目が見えるというだけではありません。イエスさまこそが神さまの愛を与えてくださる方であり、救い主だという事が、今、はっきりと分かったということでもあるのです。

#### 分級への展開

さんびしよう                    \*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□86番

□改訂34番

#### やってみよう

☆愛がいっぱいカードをつくろう

<用意するもの> 画用紙（大きさは自由）、折り紙、のり

- ①画用紙いっぱいハートの形を描く。
- ②好きな色の折り紙を小さくちぎる。（何色かずつ）
- ③画用紙のハートの中にちぎった折り紙をペタペタ貼る。

#### 話してみよう

- ・みんなは外国に行ったことはあるかな？それはどこかな？  
（世界中の人を愛している神様ってすごいね、と伝えたい）
- ・最近風邪を引いた人とか、ケガをした人とか心配している人はいますか？  
（みんなのママもパパもみんなのこと心配しているよ、神様と同じくらいに...）